

平成 25 年度第 1 回陸上掘削部会執行部会議事録

日時:2013 年 6 月 20 日(木)14:00~18:00

場所:東北大学理学部/理学研究科地学棟 513 号室(仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3)

出席者:

執行部:井龍康文(部会長補佐/名古屋大学) 廣野哲朗(部会長補佐/大阪大学)
浅沼 宏(産業技術総合研究所)小村健太郎(防災科学技術研究所)
小泉尚嗣(産業技術総合研究所)長沼 毅(広島大学) 浦辺徹郎(アドバイザー)
文部科学省海洋地球課:木村 穰
事務局:梅津慶太(JAMSTEC/CDEX)

欠席者:

公文富士夫(信州大学) 須藤 斎(名古屋大学) 藤原 治(産業技術総合研究所)
中田節也(東京大学地震研究所) MORI, James Jiro(SAG 委員/京都大学防災研究所)

議事次第

1. 前回(130318)議事録確認.....資料 1
2. 今年度予算と活動方針の確認.....資料 2, 3
3. ICDP 関連
 - SAG 会議報告.....資料 4
 - NSF Workshop: Drilling active tectonics and magmatism 報告.....資料 5
 - ICDP 各プロジェクトの現状と今後【各々】
 - ICDP membership について
 - SAG 委員の推薦について
4. その他陸上掘削研究関連の情報共有
5. ICDP Science Conference に向けた準備
6. 各種陸上掘削広報物の配布促進および制作の検討.....資料 6
7. J-DESC 将来検討委員会.....資料 7
8. コアスクールの実施
9. その他

配布資料

- 資料 1 前回国議(110329)議事録(案)
- 資料 2 平成 25 年度 J-DESC 予算
- 資料 3 平成 25 年度陸上掘削部会活動方針
- 資料 4 SAG 会議報告書
- 資料 5 NSF Workshop: Drilling active tectonics and magmatism 報告書
- 資料 6 陸上掘削部会広報物一覧
- 資料 7 J-DESC 将来検討委員会について
- 資料 Conference Layout and Invited Contributions -ICDP Science Conference 2013
- 資料 White Paper Draft: Pre-Conference Version -ICDP Science Conference 2013

議事録

1. 前回(130318)議事録確認.....資料 1

ANDRILL の記載中, ”北極”を”南極”に訂正.

訂正の後, 議事録(案)は承認された.

2. 今年度予算と活動方針の確認資料 2, 3

井龍部会長より資料 3 に基づき, 今年度の活動方針の説明がなされた.

3. ICDP 関連

•SAG 会議報告資料 4

井龍部会長より資料 4 に基づき, 報告がなされた.

- 4 月 25~28 日にスウェーデンで開催され, Mori 委員が議長として出席.
- 13 のプロポーザルを評価した(プロポーザルの種類の内訳は Full drilling: 5, Workshop: 7, Technical: 1).
- 2012~2013 年に 7 つのワークショップが開催されたことが報告された. この先 2013 年には Workshop は予定されていない.
- 現在行われている/行う予定のプロジェクトの報告があった. COREF は今年度から掘削を開始する予定.
- これまで IODP-MI が行っていた Scientific Drilling 誌の Editing を ICDP が担うことになった. ECORD と NSF が資金を供出する.
- EC と AOG は 7 月はじめに仙台で開催される(井龍部会長と倉本 EC 委員が準備を進めている).

•NSF Workshop: Drilling active tectonics and magmatism 報告資料 5

小村委員より報告がなされた.

- NSF による Workshop が今年 5 つほど開かれているようであり, そのうちの一つ. 今後 Sedimentology 関係のワークショップも開催される予定があるようだ. ウェブにも情報が掲載されている.
- 出席者 41 名であった. 出席者の中には, IODP の JFAST(日本海溝掘削)に参加した研究者もいた.
- ワークショップは, はじめに参加者が事前に提出したホワイトペーパーの説明がそれぞれ行われた. その後, 断層関係と火山関係の分科会に分かれて議論が行われた.
- 断層関係では, 「地震サイクルの理解」と「断層帯の 4 次元的な力学と構造」を重要課題とすることが結論付けられた.
- 6 月中に報告書がまとめられる見込み.
- NSF では毎年 100 万ドルの資金が陸上科学掘削件空の企画調整などのための予算として配算されているようであり, こうしたワークショップなどに活用されているようだ.

•ICDP 各プロジェクトの現状と今後【各々】

COREF

- 今年から科研費を使って掘削を開始する(与那国島と本部半島).
- 来年の冬か再来年の夏に高知コアセンターで 3 週間ほどのサンプリングパーティーを実施する予定.
- 完全公募制でサイエンスチームを結成する.

質問・コメント:

廣野:ICDP や COREF の宣伝のため、今年の掘削中に巡検を行うのはどうか？

井龍:企画してみる.

JBBP

- 東北大の土屋氏がリーダーとして科研費が通った.
- 実験とシミュレーションにより、超高温下での水圧破砕に関する検証を進め、2年後に Full Drilling Proposal を提出する予定で進めている.
- 3月ほど大きくはないが、もう一度国際ワークショップを開催する見込み.

•ICDP membership について

木村企画官及び井龍部会長より説明がなされた.

- 日本は ICDP に対して 7000 万円の分担金を支払っていたが、資金を負担している JAMSTEC が数年前に半額にしたいことを申し出、現在は 3500 万円の分担金を支払っている. J-DESC としては、減額した 3500 万円はコミュニティーのために使うことを条件に、分担金を半額にすることを申し合わせた.
- 今年度分についてはすでに 3500 万円を支払っているが、来年度の支払額について、JAMSTEC としては 2000 万円 (Normal member カテゴリー) にしたいとの意向がある.
- 文科省から JAMSTEC に予算が降りる際には ICDP の分担金のひも付き予算はない.
- 日本は ICDP のカテゴリーではすでに B になっている (ウェブページ上).
- このまま無条件で 3500 万円を維持することは困難である一方で、コミュニティーからの意見を聞かずに 2000 万円に減額することもできないため、J-DESC から意見を聞く必要というのが文科省の見解.
- カテゴリー A のメンバー国 (ドイツとアメリカと中国) は分担金を 1M\$ に増額することになっている.

合意事項 (130620-01) :ICDP の分担金に関する説明を JAMSTEC から正式にもらい、それに基づきコミュニティーとして文書にて返答をする.

•SAG 委員の推薦について

- 後日メール会議により決定する.

4. その他陸上掘削研究関連の情報共有

ANDRILL

- 7月下旬に日本側の窓口になる極地研から研究者が ANDRILL 側を訪問することになっている.
- 陸上掘削部会としてサポートすることが決まれば、井龍部会長が 7月上旬に極地研に行き、陸上掘削コミュニティーとしてサポートしたい旨を野木氏に伝える.

合意事項 (130620-02) :陸上掘削部会として ANDRILL への日本の加盟を支持し、加盟後も部会としてサポートする.

うえまち
上町断層 (上町断層科学掘削—防災パークプロジェクト (仮称))

廣野部会長補佐より説明がなされた.

- ・大阪府北部の豊中市から、大阪市内の上町台地の西の端を通り、大阪府南部の岸和田市にまで続く活断層。
- ・日本の活断層の中では地震発生率は2~3%と高い。
- ・断層上に都市が形成されているため、断層・地震の情報がほとんど得られていないことや、多くの市民が断層の存在を認識していないことなどが問題点。
- ・淀川河川敷での2kmの断層科学掘削を行う(ICDPのプロジェクトとしても提案する)ほか、豊中市服部緑地公園内の丘をけづって断層露頭を出現させ、防災公園として整備することをプロジェクト内容とする。
- ・まずは府との調整が必要。あらゆるつながりを使って訴えかけることが重要。

5. ICDP Science Conference に向けた準備

井龍部会長より説明がなされた。

合意事項(130620-03):ICDP Science Conference に向け、日本として強く推進するサイエンスに関して共通認識を持ち、国際コミュニティの中で日本の研究者のプレゼンスを高めるための合宿勉強会を8~9月に2回程度開催する。廣野部会長補佐がアレンジを担当する。

6. 各種陸上掘削広報物の配布促進および制作の検討資料 6

井龍部会長より説明がなされた。

合意事項(130620-04):今年度は、JBBP, COREF のリーフレットを作成する。また、Rapid response drilling の日本語訳については、翻訳業者に事務局より和訳原稿を送ってもらうようお願いし、執行部で分担し、今年中の完成を目指す。

7. J-DESC 将来検討委員会資料 7

井龍部会長より説明がなされた。

- ・IODP 部会部会長補佐の西氏より、IODP が10月から新たな枠組みになることに伴い、日本の地球掘削科学に関する将来の推進体制を検討することについて相談があった。
- ・そのため、J-DESC 将来検討委員会を組織することを検討しており、まずは委員の選出を行う必要があり、陸上掘削部会から推薦が求められている。

合意事項(130620-05):陸上掘削関係からは、廣野部会長補佐、東北大の岡本氏(地熱)、産総研の藤原氏(ジオハザード)、静岡大の木村氏(微生物)を推薦することとする。また、Gender バランスと湖沼掘削関係の研究者に関して井龍部会長から西氏に相談する。

8. コアスクールの実施

合意事項(130620-06):今年度はもう一度産総研で実施することについて山元氏に相談する。また、延岡断層の掘削試料を使ったコアスクールができないかどうか木村学氏に相談する。

9. その他

次回執行部会日程

Science Conference の勉強会に合わせて開催予定. 詳細はメールにて調整する.